



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年8月12日

上場会社名 株式会社ヒガシマル
コード番号 2058
代表者 (役職名) 代表取締役社長
問合せ先責任者 (役職名) 管理部部長
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 福

URL <https://www.k-higashimaru.co.jp/>

(氏名) 東 勤
(氏名) 末吉 俊哉 (TEL) 099-273-3859

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績(2026年4月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	3,151	3.3	87	—	102	—	64	—
2026年3月期第1四半期	3,052	△11.7	1	△88.2	3	△92.8	△37	—

(注) 包括利益 2027年3月期第1四半期 82百万円(—%) 2026年3月期第1四半期 △36百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	16.20	—
2026年3月期第1四半期	△9.51	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期第1四半期	12,540	4,493	35.8
2026年3月期	12,129	4,458	36.8

(参考) 自己資本 2027年3月期第1四半期 4,493百万円 2026年3月期 4,458百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	0.00	—	12.00	12.00
2027年3月期	—	—	—	—	—
2027年3月期(予想)	—	0.00	—	12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年3月期の連結業績予想(2026年4月1日～2027年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	7,466	11.2	104	△48.7	104	△52.8	78	△6.2	19.79
通期	14,548	9.1	219	△49.5	187	△60.9	133	—	33.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) 、除外 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2027年3月期1Q	4,746,000株	2026年3月期	4,746,000株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2027年3月期1Q	781,843株	2026年3月期	781,843株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2027年3月期1Q	3,964,157株	2026年3月期1Q	3,955,157株
------------	------------	------------	------------

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、四半期決算短信[添付資料]3ページ、「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当期の連結業績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、中東情勢の緊迫化の影響等による燃料や原材料等のコスト高が継続したものの、名目賃金の高い伸びや物価上昇の落ち着きを背景に個人消費や耐久財需要が底堅く推移したほか、インバウンド消費の拡大も寄与したことから、全体としては緩やかな回復基調を維持しました。このように原材料高や海外経済の不透明感といった下押し圧力を抱えつつも、内需を中心に持ち直しの動きが続きました。

このような環境のもと、当社グループを取り巻く事業環境におきましては、主要原材料費や燃料費、輸送費、資材費などのコスト高騰が一段と深刻化するとともに、他社との販売競争も激しさを増して推移いたしました。こうした状況に対し、工場における生産効率の向上や販売戦略の見直し、販売価格の適正化等に努め、業績向上に取り組んでまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の業績は売上高31億51百万円（前年同四半期比3.3%増）、営業利益87百万円（前年同四半期は営業利益1百万円）、経常利益1億2百万円（前年同四半期は経常利益3百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益64百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失37百万円）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりです。

①水産事業

水産事業におきましては、燃料費や物流コストの高止まりに加え、魚粉価格高騰に伴う飼料価格の上昇が養殖業の圧迫要因となりました。水産物流通においては、インバウンド需要の定着や外食・給食向けの出荷が好調に推移した一方、輸送費の上昇や、入荷増に伴う天然物の相場安が養殖物の価格形成に影響を及ぼしました。コスト高と流通環境の変化に伴い、製品への価格転嫁や集出荷効率化の動きが本格化しています。

養魚用配合飼料は、主要原料となる魚粉の価格高騰に伴う2026年6月1日付の価格改定前の駆け込み需要が発生したことなどにより、販売数量は前年同期を上回る状況で推移しました。

エビ飼料類は、大手販売先でのシェア率上昇や、東南アジア・南米向けの輸出が増加したことから、前年同期を上回りました。ハマチ飼料類は、受託製品で値上げ前の買い込みがあったことから、売上高は前期を上回りました。ヒラメ・マダイ飼料類は、春先の水温が低かったことによる摂餌不良や6月の赤潮による制限給餌の影響があったものの、値上げ前の買い込みがあったことから、売上高は前年同期を上回りました。

鮮魚販売事業は、量販店向けの販売が好調に推移した魚種はあったものの、水揚げ増加に伴い相場安となった天然物との競合により養殖物の販売が減少した魚種もあったことから、売上高は前年同期を下回りました。

クルマエビ養殖事業は、販売単価の下落に加え、前年11月に池入れした稚エビの初期減耗が想定を上回ったことによる出荷数量の減少が響き、売上高は前年同期を下回りました。

その結果、売上高は17億6百万円（前年同四半期比5.3%増）、セグメント利益は1億30百万円（前年同四半期比25.6%増）となりました。

②食品事業

食品事業におきましては、原材料高や円安に加え、物流費や人件費、包装資材などの複合的なコスト高が継続し、メーカー各社では値上げの動きが再び加速しています。量販店では消費者の節約志向に対応したPB製品の拡販が進む一方、外食産業ではインバウンド需要や人流回復を背景に客単価の上昇と需要増が堅調に推移し、業態間での売上傾向の選別化が進みました。

当社グループにおきましても、中東情勢の緊迫化等に伴う燃料や資材価格の高騰・供給制限に加え、パーム油をはじめとする原材料価格の高止まりにより生産コストの上昇が継続いたしました。これに対し、生産性の向上や販売戦略の見直し、適正な製品価格への改定などに取り組んでまいりました。

即席麺類は、NB即席めんブランドとしてリスタートした「鹿児島豚ラーメン5食」「沖縄豚ラーメン5食」の2品が計画を上回って好調に推移したほか、新規PB製品の販売実績も増加したことから、売上高は前年同期を上回りました。乾麺類（うどん・そうめん等）は、製造能力や利益率の低下により終売とした製品があったことなどから、売上高は前年同期を下回りました。皿うどん類は、PB商品や特売案件の増加、業務用新商品の採用などがあったことから、売上高は前年同期を上回りました。ラーメン類は、海外向けPB商品が増加し、

前年の秋に発売した製品の拡販も進んでいることから、売上高は前年同期を上回りました。カップ類は、価格改定後の棚落ちや特売減少の影響により、売上高は前年同期を下回りました。

子会社におきましては、カレールー・シチュールー類は、新規導入やレトルト商品の増販があったものの、前期のメディア露出に伴う特需が落ち着き販売数量が平年並みに戻った商品や、事業撤退した商品群の影響などにより、売上高は前年同期を下回りました。

穀粉類は、業務用企画製品の減少や期ずれに伴う一時的な受注減少はあったものの、複数取引先向けPB製品の販売増加や小売用製品の拡販が進んだことなどから、売上高は前年同期を上回りました。

かき揚げ類は、高齢者施設給食向けの受注が増加したことに加え、白エビからの原料切り替え製品の販売増加や新規製品の採用が進んだことなどにより、売上高は前年同期を上回りました。

その結果、売上高は14億45百万円（前年同四半期比0.9%増）、セグメント利益は41百万円（前年同四半期はセグメント損失13百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ4億11百万円増加し、125億40百万円となりました。これは、主として、受取手形及び売掛金が3億17百万円増加し、商品及び製品が1億79百万円増加し、原材料及び貯蔵品が1億44百万円減少したことなどによるものです。

負債は、前連結会計年度末と比べ3億75百万円増加し、80億47百万円となりました。これは、主として買掛金が86百万円増加し、短期借入金が3億20百万円増加し、長期借入金1億51百万円減少したことなどによるものです。

純資産は、前連結会計年度末と比べ35百万円増加し、44億93百万円となりました。これは、利益剰余金が16百万円増加し、その他有価証券評価差額金が18百万円増加したことによるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの売上高は、通常第1四半期連結会計期間より第2四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間の割合が高くなる季節的特徴があります。2027年3月期の連結業績予想につきましては、2026年5月15日に公表しました「2026年3月期決算短信」における業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,575	1,571
受取手形及び売掛金	1,858	2,175
商品及び製品	744	924
仕掛品	105	110
原材料及び貯蔵品	1,731	1,586
その他	127	175
貸倒引当金	△12	△13
流動資産合計	6,129	6,530
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,102	1,102
土地	1,961	1,961
その他（純額）	834	846
有形固定資産合計	3,899	3,911
無形固定資産		
のれん	9	4
その他	32	30
無形固定資産合計	42	35
投資その他の資産		
投資その他の資産	2,060	2,065
貸倒引当金	△2	△2
投資その他の資産合計	2,058	2,063
固定資産合計	6,000	6,010
資産合計	12,129	12,540

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	757	844
短期借入金	2,959	3,279
未払法人税等	18	17
賞与引当金	167	127
その他	610	782
流動負債合計	4,513	5,051
固定負債		
長期借入金	2,153	2,002
役員退職慰労引当金	32	34
退職給付に係る負債	51	52
その他	919	905
固定負債合計	3,157	2,995
負債合計	7,671	8,047
純資産の部		
株主資本		
資本金	603	603
資本剰余金	429	429
利益剰余金	3,945	3,962
自己株式	△855	△855
株主資本合計	4,123	4,140
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	334	353
その他の包括利益累計額合計	334	353
純資産合計	4,458	4,493
負債純資産合計	12,129	12,540

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	3,052	3,151
売上原価	2,471	2,491
売上総利益	580	660
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	129	131
貸倒引当金繰入額	2	0
給料及び賞与	124	128
賞与引当金繰入額	30	29
退職給付費用	7	5
役員退職慰労引当金繰入額	1	2
その他	282	273
販売費及び一般管理費合計	578	572
営業利益	1	87
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	9	10
為替差益	-	0
デリバティブ評価益	-	3
雑収入	21	27
営業外収益合計	31	43
営業外費用		
支払利息	15	16
為替差損	1	-
デリバティブ評価損	8	-
雑損失	4	12
営業外費用合計	29	29
経常利益	3	102
特別利益		
関係会社株式売却益	210	-
特別利益合計	210	-
税金等調整前四半期純利益	213	102
法人税、住民税及び事業税	219	16
法人税等調整額	32	21
法人税等合計	251	37
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△37	64
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△37	64

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△37	64
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	18
その他の包括利益合計	1	18
四半期包括利益	△36	82
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△36	82
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
水産飼料類	1,276	—	1,276	—	1,276
養殖魚類	343	—	343	—	343
乾麺・即席麺類	—	616	616	—	616
カレールー・シチュールー類	—	507	507	—	507
穀粉類	—	183	183	—	183
かき揚げ類	—	124	124	—	124
顧客との契約から生じる収益	1,619	1,432	3,052	—	3,052
外部顧客への売上高	1,619	1,432	3,052	—	3,052
セグメント利益又は損失(△)	103	△13	90	△86	3

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△86百万円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費88百万円、営業外収益13百万円、営業外費用11百万円であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
水産飼料類	1,442	—	1,442	—	1,442
養殖魚類	263	—	263	—	263
乾麺・即席麺類	—	634	634	—	634
カレールー・シチュールー類	—	449	449	—	449
穀粉類	—	200	200	—	200
かき揚げ類	—	161	161	—	161
顧客との契約から生じる収益	1,706	1,445	3,151	—	3,151
外部顧客への売上高	1,706	1,445	3,151	—	3,151
セグメント利益	130	41	171	△69	102

(注) 1 セグメント利益の調整額△69百万円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費74百万円、営業外収益16百万円、営業外費用11百万円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	102百万円	58百万円
のれんの償却額	4	4